



2024年 柑橘類防除基準



JAありだ

有田振興局農業水産振興課 監修
2023年12月作成

●基本的防除

主な管理作業	時 期	対 象 病 害 虫	薬 剤 及 び 濃 度	使 用 基 準		備 考
				みかん	かんきつ	
●酸性土壌の改善 石灰の施用により土壌の酸性を矯正する。ナメクジは酸性土壌に発生が多い。 ●密植園の間伐 密植園は病害虫の巣となるので間伐を実施する。スプリンクラー防除園では、薬剤のかかりやすい樹形にする。 ●防風樹の処理 早めに行い通風、採光を良くする。または防風樹の代わりに防風ネットを設置するのもよい。 ●剪定枝の処理 剪定枝や枯枝、かいよう病罹病枝を園外に持ち出し処分する。 ●ナメクジ・カタツムリの忌避 銅板を株元へ巻く。 ●除草の徹底 雑草が多いと害虫が集まりやすくなるのでこまめに除草を行う。 ●枯枝の処理 摘果時に見つけた枯枝は剪除する。 ●カミキリムシの捕殺 カミキリムシの幼虫・成虫を見つけたら捕殺する。 ●排水対策 褐色腐敗病対策として園内の通風・排水をはかり、多湿にしない。発病果実は直ちに園外に持ち出し処分する。 ●秋芽の処理 かいよう病の越冬場所。常発園は必須。 ●果実の取扱い 果実が腐敗しないよう、収穫・選果・貯蔵・出荷の際、ていねいに果実を取り扱う。	12月下旬～1月中旬	ミカンハダニ(越冬卵) ヤノネカイガラムシ	マシン油乳剤(95%) 45倍 マシン油乳剤(97%) 60倍	冬期/－ 12～1月/－		幹まで薬剤がかかるように丁寧に散布する。散布前後は暖かい日を選ぶ。樹勢低下園は冬期の散布を控え、春期に散布する。
	3月中下旬	ミカンハダニ ヤノネカイガラムシ	マシン油乳剤(97%) 60～80倍	3月/－		冬期との2回散布は行なわない。発芽前に散布する。ミカンハダニを対象とする場合は80倍。中晩柑類は収穫後に散布する。
	新梢伸長期～開花初期	シャクトリムシ類 コアオハナムグリ・ケシキスイ類	ロディー乳剤 2,000倍	7日/4回		散布の際ミツバチへの影響に注意する。アブラムシ類発生園では対象別防除欄参照。
	満開期～落弁期	黒点病 灰色かび病	エムダイファー水和剤 600倍 ベルクート水和剤 2,000倍	60日/2回 前日/3回	90日/2回 前日/2回	
	5月下旬～6月上旬	黒点病 ゴマダラカミキリ チャノキイロアザミウマ	ジマンダイセン水和剤 600倍 または ペンコゼブ水和剤 600倍 アドマイヤーフロアブル 3,000倍	30日/4回 30日/4回	90日/4回 90日/4回	ミカンサビダニ・チャノホコリダニ発生時は対象別防除欄参照。 ヤノネカイガラムシを対象とする場合は対象別防除欄参照。 散布の際はミツバチへの影響に注意する。株元にも十分散布する。ゴマダラカミキリには一斉防除が効果的。
	6月中下旬	黒点病 ゴマダラカミキリ チャノキイロアザミウマ ミカンサビダニ	ジマンダイセン水和剤 600倍 または ペンコゼブ水和剤 600倍 グレーシアフロアブル 4,000倍	30日/4回 30日/4回	90日/4回 90日/4回	本剤は薬効が高く、ハダニ等の天敵害虫に対して影響を与えることから、本剤散布後にハダニが発生するおそれがあるため、春期にマシン油乳剤の散布を実施する。また、本剤の散布後にハダニの発生が見られる場合は、対象薬剤を散布すること。
		黒点病 チャノキイロアザミウマ ミカンサビダニ	エムダイファー水和剤 600倍 アグリメック 2,000倍	60日/2回	90日/2回	
	7月上中旬	黒点病 チャノキイロアザミウマ ミカンサビダニ	ジマンダイセン水和剤 600倍 または ペンコゼブ水和剤 600倍 アグリメック 2,000倍	30日/4回 30日/4回	90日/4回 90日/4回	ゴマダラカミキリ発生時は対象別防除欄参照
	8月上旬	黒点病 チャノキイロアザミウマ	ジマンダイセン水和剤 600倍 または ペンコゼブ水和剤 600倍 キラップフロアブル 2,000倍	30日/4回 30日/4回	90日/4回 90日/4回	着色期以降及び施設栽培は薬害の恐れがあるので使用しない。マシン油乳剤との混用はしない。
	8月下旬	黒点病 カネタタキ	ジマンダイセン水和剤 600倍 または ペンコゼブ水和剤 600倍 オリオン水和剤40 1,000倍	30日/4回 30日/4回	90日/4回 90日/4回	☆収穫前日数に注意する。 発生に応じて散布する。チャノキイロアザミウマ発生時は対象別防除欄参照。
		ミカンハダニ アザミヤカメムシ類・ハマキムシ類・カイガラムシ類	ダニゲッターフロアブル 2,000倍 対象別防除(殺虫剤)欄参照	前日/1回		発生初期に防除を行う。 発生に応じて散布する。
	9月上旬～	ミカンハダニ アザミヤカメムシ類・ハマキムシ類・カイガラムシ類	ダニゲッターフロアブル 2,000倍 対象別防除(殺虫剤)欄参照	前日/1回		発生に応じて散布する。
	収穫前	貯蔵病害	対象別防除(殺菌剤)欄参照	☆収穫前に必ず散布する。		

※ジマンダイセン水和剤、リドミルゴールドMZ、ペンコゼブ水和剤は同成分(マンゼブ)を含むので使用回数は合わせて4回までとする。※高温・過乾燥時、夕方での薬剤散布は薬害発生のおそれがあるのでさける。(特に乳剤・液剤)

●対象別防除(殺虫剤)

対 象	時 期	薬 剤 及 び 濃 度	使 用 基 準		備考
			みかん	かんきつ	
ナメクジ類 カタツムリ類	発生時	マイキラーL 200倍	30日/3回		
		スラゴ 1～5g/m ²	－/－		
		ナメクリーン3 3kg/10a	30日/3回		
カネタタキ	発生時	スミチオン乳剤 1,000倍	14日/5回	14日/3回	
ハマキムシ類	発生時	エクシレルSE 5,000倍	前日/3回		
アブラムシ類 ミカンハモグリガ (エカキムシ)	4月～9月	モスピラン顆粒水溶剤 3,000倍	14日/3回		
		スピノエースフロアブル 6,000倍 ディアナWDG 10,000倍	7日/2回 前日/2回		
アザミウマ類 ミカンサビダニ	5月～11月	ファインセーブフロアブル 4,000倍	7日/2回		
		コルト顆粒水和剤 3,000倍	前日/3回		
チャノキイロアザミウマ	5月～10月	ハチハチフロアブル 2,000倍	前日/2回		目に入らないように注意する。
ミカンサビダニ チャノホコリダニ	5月～10月	コテツフロアブル 4,000倍	前日/2回		
ミカンハダニ	発生時	コロマイト水和剤 2,000倍	7日/2回		
		スターマイトフロアブル 3,000倍	7日/1回		
カイガラムシ類	8月下旬～	ダニコングフロアブル 4,000倍	前日/1回		
	5月上旬～	モベントフロアブル 2,000倍	7日/3回		
	5月下旬～	トランスフォームフロアブル 2,000倍	前日/3回		
ヤノネカイガラムシ (若齢幼虫)	6月中下旬・8月中旬～	スタークル顆粒水溶剤 2,000倍	前日/3回		
サンホーゼカイガラムシ (若齢幼虫)	6月・8月上旬				
サンホーゼカイガラムシ (若齢幼虫) イセリヤカイガラムシ (幼虫)	5月下旬～	アブロード水和剤 1,000倍	14日/3回	45日/3回	
		スタークル顆粒水溶剤 2,000倍	前日/3回		
コナカイガラムシ類	6月上旬	アクタラ顆粒水溶剤 2,000倍	14日/3回		
		アクセルフロアブル 2,000倍	7日/3回		
ゴマダラカミキリ	成虫発生時	ダントツ水溶剤 4,000倍	前日/3回		
	7月中下旬(株元散布)	アクセルフロアブル 200倍 モスピラン顆粒水溶剤 400倍	7日/3回 14日/3回		
カメムシ類	発生時	スタークル顆粒水溶剤 2,000倍	前日/3回		
		ロディー乳剤 2,000倍	7日/4回		

●除草剤

薬 剤 名	薬量(10a当)	液量(10a当)	希釈倍数	使用基準
ゾーパー	300g	300ℓ	1,000倍	60日/1回
ブリグロックスL	1,000ml	150ℓ	150倍	前日/5回
ザクサ液剤	500ml	100ℓ	200倍	21日/3回
ラウンドアップマックスロード	500ml	100ℓ	200倍	7日/5回
タッチダウンIQ	500ml	100ℓ	200倍	5日/3回

※ラウンドアップマックスロードとタッチダウンIQ、草枯らしMIC・サンフーロン・グリホエクスなどは同成分(グリホサート)を含むので使用回数は合わせて5回までとする。
※ザクサ液剤とバスタ液剤は同成分(グルホシネート)を含むので使用回数は合わせて3回までとする。

●農業散布の前後関係

- ICボルドー66D ← → マシン油乳剤 14日間
- マシン油乳剤 → フィガロン乳剤 10日間
- 石灰硫黄合剤 → マシン油乳剤 2日間
- フィガロン乳剤 → 石灰硫黄合剤
- デランフロアブル ← → マシン油乳剤 (開花期以降はマシン油乳剤と1ヶ月間隔をあける)

農業は注意書きをよく読んで、安全使用・危害防止に努めましょう。 農業・肥料等生産資材は内容明確で安心・安全な信頼できるJAを御利用ください。

●対象別防除(殺菌剤)

対 象	時 期	薬 剤 及 び 濃 度		使 用 基 準		備 考
				みかん	かんきつ	
貯 蔵 病 害	収穫前	ベンレート水和剤	4,000倍	前日/4回	前日/2回	ベフラン液剤を石灰硫黄合剤、水和硫黄と混用する場合は先にベフラン液剤を溶かし必ずかくはん機を使用する。他剤とベフラン液剤を混用する場合は他剤希釈後ベフラン液剤を加用する。
		トップジンM水和剤	2,000倍	前日/5回		
		ベフラン液剤25	2,000倍	前日/3回	前日/2回	
か い よ う 病	発芽前	ICボルドー66D	40倍	－/－		アピオンE1,000倍を加用。 高温時の使用はさける。
	新梢伸長期		80倍			
	自己剪定後(5月下旬頃)		60倍			
	梅雨期(6月下旬まで)		80倍			
	台風襲来前	コサイド3000 加用 クレフノン	2,000倍 200倍	生育期/－ －/－		
そ う か 病	発芽直後 (4月上中旬)	デランフロアブル	1,000倍	30日/3回		マシン油乳剤とは開花期以降の場合1ヶ月期間を開ける。 6月以降の夏期高温時には薬害の恐れがあるので、6月以降の散布は控える。
そ う か 病 黒 点 病	満開期以降					
灰 色 か び 病	満開期～落弁期	ストロビードライフロアブル	2,000倍	14日/3回		
そ う か 病 黒 点 病		ナティーボフロアブル	1,500倍	前日/3回		
かんがい用水の消毒		かん水時	ケミクロンG	100,000倍	－/－	
褐 色 腐 敗 病	発生前	ランマンフロアブル	2,000倍	前日/3回		
		レーパスフロアブル	2,000倍	前日/3回		

●植物成長調整剤

品 種	目 的	時 期	薬 剤 及 び 濃 度		使用基準	年総使用回数	
温州みかん	全摘果	満開10～20日後	ター ム 水 溶 剤	500～1,000倍	1回	4回以内	
	間引き摘果	満開20～40日後		1,000～1,500倍			
	全摘果	満開10～20日後		1,000～2,000倍※1			
	間引き摘果	満開20～50日後	フィ ガ ロ ン 乳 剤	1,000～2,000倍	1回	4回以内 (1,000倍希釈散布 は2回以内)	
	熟期促進	(1回目) 満開50～90日後 (2回目) 満開70～110日後		3,000倍			
	浮皮軽減	坐尻期(着色初期)と その2週間後					7日/2回
	浮皮軽減 (中生、晩生)	8月下旬～9月中旬 (着色遅延に注意)					
かんきつ	へた落ち防止	収穫開始予定日の 20～10日前	マ デ ッ ク E W	2,000倍～ 3,000倍	1回	へた落ち防止に使用する場合は 合計1回以内 後期落果防止に使用する場合は 2回以内 (但し、異なる目的には使用しない)	
	後期落果防止	着色期～ 収穫20日前			2回		
	花芽抑制による 樹勢の維持	収穫直後～ 収穫約1ヶ月後※2	ジベレリン 液 剤	25～50ppm (200～100倍)	1回	1回※3	
			ジベレリン 液 剤	25ppm (2,000倍)	1回	1回※3	
		収穫後～3月※2	アタックオイル60～80倍に加用				
					-/-		

※1 フィガロン乳剤を1,000～2,000倍で散布する場合は、エスレル10の2,000～8,000倍と混合する。

※2 温州みかんは、11月～1月(但し、収穫後)

※3 温州みかん、不知火、はるみは3回以内

※フィガロン乳剤は樹勢の低下した樹への散布は控える。 ※ターム水溶剤は落葉および浮皮発生的事例あり。

※ジベレリン液剤の浮皮軽減目的の散布は着色遅延をとまなうため出荷時期を考慮して使用する。

●薬剤希釈倍数表

希 釈 倍 数	40	45	60	80	100	150	200	300	400	500	600	750	800	1,000	1,500	2,000	3,000	4,000	5,000	6,000
水100ℓ 当り薬量ml(g)	2,500	2,222	1,666	1,250	1,000	666	500	333	250	200	166	133	125	100	66	50	33	25	20	16

※登録のない薬剤は絶対に使用しないこと。

※隣接地に薬剤が飛散しないように注意してください。

※この表に掲載している薬剤は、柑橘類へ使用できる農業の中から特にJAが指導している農業です。この中から使用するようにお薦めします。

※使用基準の左の数字は収穫前日数、右の数字は使用回数です。(－は未設定、xは登録なし)

※自分が生産した農作物に、いつ、どんな農業を使用したか、いつでも誰にでも公開できるように使用する度に記帳しておきましょう。

☆農業の残液が河川等に流出しないように特に注意してください。